

令和3年度 第2回ナセBA運営協議会議事録

1. 開催日時 令和4年1月24日（月） 午後3時～午後4時50分

2. 開催場所 ナセBA1階・体験学習室

3. 出席者 8名出席

（委員）

我妻 仁（会長）、北口 己津子（副会長）

太田 和広、船山 恒、渡部 純子、田中 明子、白田 静雄、小嶋 千夏

（事務局）

公益財団法人米沢上杉文化振興財団

種村 信次、岸 順一、渡部 洋己、青木 昭博、石黒 志保、遠藤 朋香、齊藤 かおり、福石 敏史、齋藤 佳奈

4. 開会（事務局）

5. 理事長あいさつ（理事長）

大雪の中、ご出席いただき、心から厚くお礼申し上げます。ナセBAは、皆様のご支援のおかげで、コロナの影響を受けながらも運営できている。コロナは昨年の暮れに落ち着いたと思ったが、今年に入ってまたオミクロン株が発生し懸念している。

最近の入館状況は、令和元年度に比べると、入館者数は70%くらいに戻っている。貸出状況は、ほぼ例年通りに戻っている。

本日の協議会では、特に利用者アンケートについて皆様からご意見いただきたいと思う。アンケートは800通を超える回答をいただいた。その中で90%くらいの方々が、図書館に満足しているという結果で非常にありがたい。いろいろなご意見があると思うが、実現が難しいものもあるのでそこについてはご理解いただきたい。

6. 会長あいさつ

大雪の中、ご出席していただき、心から厚くお礼申し上げます。大雪やコロナ再拡大などにより、心が疲れている方も多し中、図書館やギャラリーは心の癒しになる。これからも休館せず、感染対策を続けて開館していただきたい。

7. 協議

- (1) 令和3年度 市立米沢図書館・よねざわ市民ギャラリーの事業中間報告について概略を事務局から説明。

(2) 令和4年度 市立米沢図書館・よねざわ市民ギャラリーの開催予定事業について
概略を事務局から説明。

(3) 利用者アンケート調査結果について
概略を事務局から説明。

(委員) 予約してもすぐに借りられない本は、どのような本なのか。

(事務局) 人気のものは、最大で3冊購入して貸出しているが、貸出期間2週間と予約取り置き期間が1週間必要のため、一人あたり最大で3週間かかってしまうことがある。このため、例えば東野圭吾『透明な螺旋』は43件の予約があり、最後の人が借りられるまで1年以上かかってしまい、もう買ってしまったというご意見をいただくことがあった。

(委員) アンケートの期間は14日間ということだったが、アンケートを利用者に渡して書いてもらっていたのか、それとも希望する利用者が書いていたのか。

(事務局) 窓口で高校生以上の利用者に渡して書いてもらった。

(委員) また、アンケートの様々な項目の中で、図書館側として問題だと思う項目はどれか。

(事務局) 図書館側で特に考えていかなければならない項目は、図書館サービスについてである。9割程度の方が満足しているが、一部には職員の対応で気分を害している方もいらっしゃる。そのような方たちに向けてサービスの改善をしなければならない。また、選書については、どうしても職員が文系なので、理系資料のより適切な収集をするにはどうすればよいか考えていかなければならない。また、駐車場などの設備については、市に関わることなのでどうしようもない点がある。市には、我々から利用者の要望があったことについてしっかり伝える。貸出期間に関しても市で定めている規則を基に運営しているので、設備と同様に伝えていきたい。

(委員) アンケートは5年に1回にするのか、継続して行うのか。

(事務局) 新館になり初めて行ったことなので、今後どうしていくかは検討していきたい。

(委員) CD・DVDの貸出は、図書館でいつ頃から行われていたのか。

(事務局) 20年前くらいの文化センターの頃に、図書館と視聴覚センターが図書館と一緒にあった。その頃からビデオなどの視聴覚資料を、図書館で貸出するようになったのではないかなと思う。図書館で貸出しているDVDは、一般に販売されているものと違い、著作権の処理をするために値段が高い。今年度は23本購入。民間の事業を圧迫しないよう配慮しながら、貸出している。

(委員) アンケートを書いている人は図書館に来ている人なので、もちろん本を借りに来ることが目的となっている。利用者の中で、調査(レファレンス)を利用できることを知らない人が多いことが意外だった。レファレンスは図書館で一番利用してほしいサービスだと思う。レファレンスの場所でもあることを広報等で広めてほしい。そうすれば本を借りたい人だけでなく、調べたい人にも来てもらうことができるので、ぜひ広めていただきたい。

(事務局) 今回のアンケートは、米沢市内の方からの回答がほとんどだった。一方、郷土資料のレファレンスの申込みが、本日分で200件を超えている。そのほとんどが市外の方なので、市内の方々にも今後レファレンスを利用していただけよう努めていきたい。また、本

を借りたい人向けのアンケートだったので、レファレンスについては、このような結果だと考えられる。レファレンスについての周知の仕方、工夫を考えていかなければならない。

(委員) アタゴオルによるコミセンの出前おはなしかいが好評だったので、ぜひまたお願いしたい。

(事務局) おはなしかいは去年、今年と行いたかったが、コロナ禍なので難しかった。オミクロン株が落ち着いたらまた行いたい。また、アンケートより、10代~20代の利用者は、図書館を勉強の場として利用していることがわかる。子ども達の読書離れが進んでいることから、おはなしかいの再開や、イベントなどにも来てもらえるような工夫を検討していきたい。

(委員) 館内検索機の様々な問題点について、機器の更新をすれば改善されるのか。

(事務局) 反応が悪いというのは、アルコール消毒をするために、ビニールシートを貼っていることが理由の一つと考えられる。また、機種自体が古いことも一因だ。今年の6月に機種が新しくなる予定で、少し反応は良くなると思われる。曖昧検索ができない問題は、業者に改良できないか打診してきたが、全国共通のシステムとの回答を受けている。館内の案内図が反対になる問題は、利用者が使いやすいように改善していきたい。

(委員) 自動貸出機を使っていない、または知らない方が多いので、自動貸出機をもっとわかりやすい場所に置くことはできないのか。

(事務局) 機械を移動するのは難しい。

(委員) ナクソスミュージックライブラリーの利用状況について教えてもらいたい。

(事務局) 利用状況はそれ程には多くはない。また、パソコン上でのみ聴けるストリーミングサービスであるため、スマートフォンが広く普及した現在では、利用者へのアプローチに工夫が必要と感じている。利用状況の改善のために、ナクソスの利用方法を掲示したり、関連書籍を置いたりして周知を行っている。

(委員) 図書館が現状で感染対策として出来ることは、自分一人で利用できるサービスを増やすことだが、何か取り組んでいることはあるか。

(事務局) 自動貸出機の利用促進のため、自動貸出機は簡単に使えるという広報を行ってきたい。

(委員) 電子書籍の計画はあるか。

(事務局) 電子書籍は検討をしているが、現在の図書購入の予算範囲内で取り組む必要があり、需要がどの程度あるかなどをふまえて考えなければならないと思っている。

全体を通しての意見

(委員) 色々な事業を開催していることから、図書館の運営に一生懸命取り組んでいると感じた。利用者アンケートについては、ソフト面とハード面で実現できるところとできないところがあると思うが、駐車場については1件だけの契約なのか。

(事務局) まちなか駐車場が満車の場合は、平和通りの駐車場を案内している。まちなか駐車場は3時間無料で、平和通りの駐車場は1時間無料となっている。

(委員) 文化会館でイベントがあると利用しづらいという声もあるので、平和通りも3時間無料にしてほしい。また、職員の対応について、窓口で受ける対応が職員によって違うというご意見があったということだったので、職員全員が同じ対応をできるように、利用者から

どうい質問をされることが多いのかまとめ、対応の仕方を統一していくのが良いと思う。最後に令和4年度の事業の中に、昔の米沢駅の写真展を開催する予定とのことだが、商工会議所で、昔の米沢のカレンダーの販売をしていて好評なので、ナセBAでの昔の米沢写真シリーズの展示は継続してほしい。

- (委員) 前回の協議会でも伝えたが、図書館は若い人に来てもらうことが重要だと思う。若い人に来てもらうためにも、予算の見直しをしてほしい。一番子どもが喜ぶことは、おまけをつけること。そのためにも飲食店と何か共同で企画すれば良いと思う。また、理工系の専門図書は高額なので、山形大学工学部の図書館に協力を募ればよいと思う。
- (委員) よく子どもと一緒に図書館を利用するが、特集コーナーをいつも楽しみにしている。母親の立場からすると、子連れの親は図書館の敷居が高い。子連れ世代に来てもらうためにも、乳幼児向けのサポートをしてほしい。例えば、保護者専用の時間を設ければ、騒いでも他の利用者が仕方ないと思ってくれる。また、子連れだと、子どもの本を選ぶのに精一杯で、自分の本を選べないことが多い。そのような利用者のために、子どもの図書のスペースに母親が読みそうな本を置いてくれるとよいと思う。ソフト面でパパとママにとってフレンドリーな図書館になってほしい。
- (委員) アタゴオルについて、様々なジャンルの本を揃えなければならないというのはわかるが、配本場所によって利用者層が変わるので、アタゴオル内の本の選び方を検討していただきたい。また、おはなしかいについて、図書館は大人から子どもまで利用する場所なので、学童だけでなく、介護施設等での大人向けの読み聞かせもしてほしい。また、来年度の豆本の展示を楽しみにしている。
- (委員) 中学校では、三年生を対象に行う全国学力学習状況調査の結果、本を読む子どもと読まない子どもで二極化の傾向が強いことが分かった。学校の取り組みとして、先生のおすすめ本を紹介するなど、子どもが本に興味をもってくれるような工夫をしている。また、調べ学習をするとき、タブレットを使って調べることが当たり前になっているので、図書館離れが進んでいることを感じる。小さいころから読書に触れることが大事なので、ナセBAで本に触れる工夫をしていただきたい。社会一体となって子どもの読書離れを改善しなければならぬと感じる。
- (委員) 小学校では、担任が週に1度図書室に連れて行って本の貸出をしている。また、朝読書にも取り組んでいる。子どもたちは、隙間時間を見つけて読書している。そのため、学校に本を置きっぱなしにし、親は子どもが読書をしないと思っている。また、ゲーム機などの電子機器の方が面白いと感じている子どもが多い。しかし、夏休み子ども図書館フェアの「お楽しみ袋」「ガチャガチャ」や、「うちどくスタンプラリー」などはとても楽しそうなイベントである。来年度、学校図書担当教員の研修に力を貸していただきたい。
- (委員) レファレンスについて、学生が図書館で卒論のために本を探しているときの対応が大変よかった。今の学生は、情報に対する態度も変わり、ネットの情報を信じてしまうようになっている。便利だが、紙の情報やレファレンスのよさを知ってもらい、レファレンスを通して本で調べることの必要性を伝えていただきたい。また、レファレンスの大切さをコラム的なもので特集してみるのも良いと思った。

(事務局) 皆様の貴重なご意見を内部でしっかり話し合い、検討していきたい。

(4) その他

(事務局) 来年度は委員の改選時期にあたっている。このため、任期が7月末頃までとなるが、5月頃には、委員を決めて、ナセBAについて考えていただく機会を設けていきたいと考えている。

8. 閉会

以上